

# 早川 公二 議員 政風会

## 市制10周年記念事業として記念切手の作製を

### 問

(1) 市制10周年記念事業として、さまざまなイベントが計画されているが、何年たっても、過去に10周年記念事業が行われたと、いつまでも良い思い出となって残るように記念切手をつくってはどうか。

十分ではない。

きちんと補修する計画はあるのか。

**市民参加型の事業を計画、記念切手の作製は考えていない**

### 答 総務部長

(1) 市制10周年記念事業としては、現在いろいろと計画している。

(2) ニツ又池でも毎年開催される芝桜まつりや健康フェスタ、特に芝桜まつりは、年々芝桜の数の増加に伴い来場者数も年々ふえているので、来年度は10周年ということもあり、多くの人でにぎわうことと信じている。

しかし、ニツ又池内の菖蒲園には菖蒲が見当たらない。来年度に向けて新しく植えるのか。また、菖蒲園の中を通る八ッ橋は木が腐っている箇所が目立ち、補修してあるところもあるが、

式典、(仮称)あいち花フェスタ2016、(仮称)金魚サミット2016、テレビの公開番組、市内見学ツアーなど、多くの市民に喜んでもらえる参加型の記念事業を数多く計画している。

記念切手の作製については今のところ考えていない。

**答 開発部長**

(2) 菖蒲園の菖蒲は現在枯れてしまつて、葦が生い茂っている状況である。また、園内を散策するた

めの橋、八ッ橋も損傷部分が多く、修繕が追いつかない状況である。

菖蒲は、管理がとてもしく、毎年、維持管理にも多額の費用が必要になる。

八ッ橋も、抜本的な改修が必要であり、こちらも費用が多額になる。

菖蒲園を再生するのではなく、違う形で有効な活用ができないか、来年度、県と調整しながら基本構想を取りまとめていきたい。

**市は大規模災害における大量の災害廃棄物に対応ができるのか**

### 問

(1) 県の市町村別災害廃棄物等発生量推計で、本市は災害廃棄物53万8千329トン、津波堆積物87万9千80トン、合計141万7千408トンと推計されている。津波堆積物は、県内で3番目に多いと推計されている。

トンでの表示では、イメージしにくいので、体積に置き換えてみると、試算では、災害廃棄物52万6千916

m<sup>3</sup>、津波堆積物68万6千780m<sup>3</sup>、合計121万3千696m<sup>3</sup>である。この量は、170万m<sup>3</sup>の名古屋ドーム約0.7杯分である。

この廃棄物を仮置くのに必要な敷地面積を単純に計算すると、5m積み上げた場合で24万2千739m<sup>2</sup>必要である。プールの面積にする64個分だが、この数値は四方を垂直に積み上げた場合である。実際には廃棄物の四方を垂直に積み上げることが不可能で、敷地も搬入量や積み上げた廃棄物が崩れ落ちることなどを考慮すると、実際には1.2から1.3倍の30万m<sup>2</sup>ほど必要と考える。

今現在、災害廃棄物の仮置き場を確保してあるのか、確保してあるなら何m<sup>2</sup>ほどの敷地があるのか。

(2) 速やかに処理をしてくいって、どのように迅速に処理をしていくのか。

**仮置き場の確保と災害協定により早期の復旧に努めていきたい**

### 答 市長

(1) 現在、市内には仮置き場として利用可能なオープンスペース、これは公園やグラウンドなどであるが、約15万m<sup>2</sup>確保できると考えている。15万m<sup>2</sup>で大丈夫かということになるが、ごみはいろいろな形で細分化しながら順次処理をしていくことが可能であり、約15万m<sup>2</sup>あれば可能と考える。

(2) 災害に対する協定を締結している。

一つは、市の公共事業を請け負う建設業協力会と災害協定を締結している。

また、8月27日付で、「災害時における廃棄物の処理等に関する協定」を愛知県産業廃棄物協会と締結している。

災害時には速やかに協力の要請を行い、早期の復旧に努めていきたい。